令和7年度 学校関係者評価報告書 (評価対象期間 令和6年度)

令和7年7月
岐阜県立森林文化アカデミー

1 学校関係者評価の実施方法及び公表について

学校関係者評価の実施にあたり、令和7年6月18日に学校関係者評価委員会を開催し、「令和6年度自己評価報告書」について、自己評価の各項目に対する評価とご提言をいただきました。多くの貴重なご意見やご指導に対して、感謝申し上げます。

その評価及び提言等について学内で検討を行い、今後の対応として整理しました。評価結果について、本校における教育活動や学生指導等の学校運営の改善に活かし、それらの質の保証と向上に継続的に努めるとともに、ホームページ等で公表します。

2 学校関係者評価委員

区分	委員名	摘要
教育関係者	水野 泰孝	岐阜農林高等学校校長
関連業界	細川 正孝	加子母森林組合 代表理事組合長
	美谷添 理恵子	白鳥林工協業組合 代表理事
	石橋 明世	ぎふの木の住まい協議会 事務局長
行政機関	中谷 裕次	岐阜県林政部林政課長
学識経験者	伊藤 栄一	NPO法人森のなりわい研究所 代表
在校生の保護者	安江 規子	2024年度入学エンジニア科保護者
卒業生	吉田 理恵	2017年度クリエイター科卒業生

3 評価結果

(1) 評価項目ごとの評価値と委員の評価結果

評価項目	自己評価値	委員の評価結果	
		適切	不適切
1. 教育理念・目標	4	8	0
2. 学校運営	4	8	0
3. 教育活動	3	8	0
4. 学習成果	3	8	0
5. 学生支援	4	8	0
6. 教育環境	3	7	1
7. 学生の受入れ募集	4	8	0
8. 法令等の遵守	4	8	0
9. 社会貢献・地域貢献	4	8	0
10. 国際交流	4	8	0

※自己評価値は、「4：適切」「3：ほぼ適切」「2：やや不適切」「1：不適切」

※委員の評価結果は、学校の自己評価の内容を「適切」又は「不適切」と評価した委員の人数

(2) 評価項目ごとの意見及び対応方針

別紙のとおり

(3) 総評

学校関係者評価委員会では、全10項目の自己評価結果のうち9項目は全員の委員から「適切」であると評価を受けましたが、項目「6. 教育環境」の「施設・設備」については、1人の委員から、老朽化や不具合が目立ち改修作業を早急に進める必要があるという点で、「ほぼ適切」という評価は不適切と評価をいただきました。今後、施設や設備の改修が計画的に進むよう予算確保等に努めてまいります。

また、「適切」と評価いただいた項目の中にも、改善が必要な内容が含まれているため、今回いただいたご意見やご提言等を踏まえ、早期に改善可能なものについては今年度から実施し、中長期的な取組を要する事項については、効果及び実現可能性を検討の上、対応してまいります。

令和7年度学校関係者評価委員会における委員の意見それに対する本校の対応方針

評価項目	評価	委員の意見等	対応方針
(1) 教育理念・目標	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	—
(2) 学校運営	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の増加原因の分析が必要。その上で、対応を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の内容や発生時期等を随時把握し、必要があれば業務執行体制の見直し等に取り組んでまいります。
(3) 教育活動	3 (ほぼ適切)	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの改善については、引き続き、良い方策を検討していただきたい。 授業アンケートは教員の負担にならない方法を検討するとよい。 インターンシップは現場の状況がそれぞれ違うのでどんどんやって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の改善や教員の意識向上のため、アンケート回答率の向上に取り組んでまいります。また、アンケートの集計結果や評価への対応方針等について教職員間で共有し、授業の改善に役立ててまいります。 インターンシップは、エンジニア科では必須科目として1年次に1回、2年次に2回、クリエイター科では選択科目として実施します。今後も学生が円滑にインターンシップに参加できるよう支援してまいります。
(4) 学習成果	3 (ほぼ適切)	<ul style="list-style-type: none"> 就職率だけで評価するのではなく、林業界への就職状況を評価しても良いと思う。 県立であるため県内就業促進という視点は必要だろうが、全国に通用する人材を送り出していくことも重要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年間の学びが生かせる事業体に就職できるよう、引き続き学生を支援してまいります。 ※R6 エンジニア科就職先 〔 林業 76%、林産業 12% 〕 〔 造園 6%、地方公社 6% 〕 県内の林業技術者確保のため、エンジニア科は今後も県内就職率80%を目指すとともに、クリエイター科は県内外で活躍する人材の輩出に努めてまいります。

		<ul style="list-style-type: none"> 森林・林業の多くの課題に取り組む人材が育っているのを実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業界とも連携をしながら、「アカデミービジョン 2040」の理念に沿った人材の育成に努めてまいります。
(5) 学生支援	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への連絡は、体調不良や怪我、欠席が多い場合だけでなく、履修状況が確認できるなど、もう少し情報共有できる場があればと思う。 「ぎふ林業甲子園」は高校生が林業を目指す大きなきっかけとなると思うので続けて欲しい。 県内農林高校との連携にご理解ご支援を引き続きお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学内行事などの状況をこまめにウェブサイトに掲載するなど、活動状況を積極的に情報発信するよう努めてまいります。 引き続き、「森のジョブステーションぎふ」と協力し、農林高校生の支援に取り組んでまいります。 農林高校生向けの林業・林産業体験研修を継続実施するなど、農林高校との連携に取り組んでまいります
(6) 教育環境	3 (ほぼ適切)	<ul style="list-style-type: none"> 学校も20年以上経過し、施設の老朽化や設備の不具合が目立つ。改修作業を早急にして欲しい。 森林経営計画や、森林と環境、森林空間利用、森林クレジット制度など、就職後にすぐ役立つ制度や手続きを教える授業を実施して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設や設備の改修が進むよう予算確保等に努めてまいります。 森林経営計画に関しては森林経営計画実習の授業で、J・Gクレジット制度などの国や県の施策に関しては森林政策・森林計画の授業で取り扱っており、内容の充実に努めてまいります
(7) 学生の受入れ募集	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 女性の学生もいるので活躍をPRしたほうがいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトへの掲載や入学案内用パンフレットに卒業生紹介を掲載するなど、在学生や卒業生の活躍が見えるように取り組んでまいります。
(8) 法令等の遵守	4 (適切)	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	—

<p>(9) 社会貢献・地域貢献</p>	<p>4 (適切)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 災害時におけるアカデミー施設の活用という視点からも社会貢献を考えて欲しい。 ▪ アカデミーの持っている場や人材のポテンシャルを活用した社会貢献、地域貢献を進めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 災害時の対応について、美濃市との連携を検討してまいります。 ▪ 教員の専門性や技術を活かした受託研究8件をはじめ、団体や企業等の活動に対して講師や書籍執筆等で62件の協力をしており、引き続き、各種の要望に対応してまいります。
<p>(10) 国際交流</p>	<p>4 (適切)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ より多様な地域との交流を進めることでグローバルな視点を身に付けられるよう模索して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ドイツを中心とした欧州や、中国、韓国と交流を進めていますが、他の地域との連携の有益性や可能性についても情報収集してまいります。